



一般社団法人  
日本インターナショナル・サポート・プログラム (JISP)

2018年度 (2018年4月～2019年3月)  
活動報告書

### 1. 団体の背景

2011年3月11日に東北地方で発生した大規模な地震と津波により、三陸沿岸地域では多くの死傷者が発生し、インフラは壊滅的な被害を受けた。各国政府や支援団体が支援に駆けつけるなか、イスラエルのNGO「The Israel Forum for International Humanitarian Aid (イスラエイド)」は、東北の被災地各地で物資提供などの緊急支援を実施し、2013年8月には、心理社会的支援を継続的に提供するために、当団体の前身団体「一般社団法人 日本イスラエイド・サポート・プログラム (JISP)」を設立した。その後JISPは、東北での支援を通じて得た経験やリソースを活かし、イスラエイドと連携しつつ、国内外の自然災害や紛争等により被害を受けた人々やコミュニティの支援活動を実施している。なお、JISPとイスラエイドは、アライアンス関係を2018年末で終了したため、当団体は2019年1月1日付で「一般社団法人 日本インターナショナル・サポート・プログラム」に名称変更し、東北を本拠とする国際NGOとして新たなスタートを切った。

### 2. JISPの事業目的

- ◆ 天災・人災によって甚大な被害を受けたコミュニティおよび被災者が緊急事態を脱し、持続可能な生活に移行するための支援を行うこと。
- ◆ 教育等を通じて人々の心身を育成し、コミュニティを健全な状態に戻すこと。
- ◆ 海外地域との国際相互理解を促進し、経済協力に発展させること。

### 3. 「イスラエイド」について

イスラエイドは、政治や宗教にとらわれずに、自然災害や人災により影響を受けたコミュニティへの緊急支援、復興支援や長期的な開発援助を行うことを目的として、2001年にイスラエルで設立された国際人道支援団体であり、2019年現在、現在十数ヶ国で支援活動を実施している（詳しくはHPに掲載 [www.israaid.co.il](http://www.israaid.co.il))。

2011年の東北地方での津波発生4日後に、イスラエイドの緊急支援チームは三陸沿岸の被災地に入り、物資配布、住宅清掃、子どもの遊び場設置や、学校再建等の緊急支援を実施した。この災害による被害の甚大さから、心理社会的ケアやトラウマケアの長期的ニーズが発生することが予想されたため、東北の被災地で長期的支援を提供し、その支援実績を国内外の支援事業でも活かすために、JISPが設立された。

#### 4. 事業報告

##### 【A. 国内事業】

##### A-1. 熊本震災支援

事業期間	2016年4月～2020年3月（予定）
事業地	熊本（熊本市内）
目的	熊本地震で甚大な被害を受けたコミュニティを対象に、心理社会的支援を提供すること。
支援対象者	地震被害が大きかった市内小学校の特別支援学級の子ども、職員、保護者
資金供与団体	Global Giving、イスラエイド、個人・団体寄付金

##### （事業実施の経緯）

熊本県で2016年4月14日に発生した大地震を発端として断続的な余震が発生し、18万人を超える避難者が発生した。当団体は、イスラエイドと連携して震災直後に緊急食料支援およびニーズ調査を実施し、避難所、外国人コミュニティ、学童施設などを対象に、心理社会的支援を中心とする支援を実施した。2017年以降は、震災で大きな影響を受けた熊本市内の学校からの要請により、特別支援学級の支援を実施するに至った。

##### （事業内容）

2016年の地震により被災した熊本市内の小学校等を対象とした、特別支援学級の子ども、保護者、学校職員への心理社会的支援を目的としたアクティビティの提供。

##### （具体的な事業活動）

- ・東町小学校、川尻小学校、力合西小学校の特別支援学級の子ども（1～6年生）を対象に、岡田太陽専門家（臨床心理士およびスクールカウンセラー）によるブレインジム<sup>1</sup>のアクティビティを18回実施し、のべ241人の子どもが参加した。
- ・特別支援学級の担当教員や保護者がブレインジムについての理解を深め、実践できるようにするために、岡田専門家による研修を3回実施し、25人が参加した。
- ・熊本市内で、震災復興支援にあたるケアプロバイダ8人を対象に、ストレス対処法としての「BASIC-Ph（ベーシックピーエイチ）モデル」<sup>2</sup>についてのワークショップを実施した。

##### （成果）

- ・地震の影響により運動スペースが限定され、多様なストレスを抱える特別支援学級の子どもの表現力、集中力、身体能力等が向上する効果が見られた（職員、保護者からの聞き取り結果）。
- ・ブレインジムのアクティビティに職員にサポート役として積極的に参加してもらい、加えてその実践方法について研修を行うことにより知識とスキルが向上し、一部学校ではカリキュラムに導入するまでに至った。

<sup>1</sup> アメリカでポール・デニソン博士により開発された脳を活性化するエクササイズ・プログラム。ブレインジムを行うことで、神経経路を発達させ、学習能力、身体能力、実行力、表現力、コミュニケーション能力を高められるとされている。

<sup>2</sup> イスラエルの心理学者ムーリ・ラハド博士により開発されたストレス対処法モデル。



ブレインジムのエクササイズを楽しむ特別支援学級の子どもたち（2018年6月）

岡田専門家によるブレインジムに関する講義に熱心に聞き入る東町小の職員（2018年9月）

## A-2. 西日本豪雨災害支援

事業期間	2018年7月～2019年12月（予定）
事業地	岡山県（倉敷市、岡山市、総社市）
目的	西日本豪雨により甚大な被害を受けた倉敷市真備町を中心に、緊急物資支援と、心理社会的支援を中心とした中期的支援を提供すること。
支援対象者	倉敷市真備町の被災者（避難者、子どもや母親など）
資金供与団体	イスラエイド、末日聖徒イエス・キリスト協会、個人・団体寄付金

### （事業実施の経緯）

2018年7月に発生した豪雨により、西日本を中心に全国的に広範囲で記録的な大雨となり、200人を超える死者を出した。当団体は、最も被害が大きい地域の一つであった岡山県倉敷市真備町での支援を決定し、緊急物資支援や心理社会的支援を実施した。2019年9月以降は、岡山で被災者の子育て支援に取り組む現地支援団体「サンサポートおかやま（サンサポ）」と連携し、子どもや母親を中心とした支援を実施した。

### （事業内容）

災害直後は、真備町に開設された避難所での緊急物資支援や、避難所で被災者支援にあたる支援者への心身の健康チェックを実施した。またサンサポとの連携のもと、被災した幼稚園、避難者、仮設住宅居住者などへの物資支援や、被災者や支援者に向けた心理社会的ワークショップを実施。

### （具体的な事業活動）

- ・災害直後に真備町で開設された菌小学校や岡田小学校などの避難所でニーズ調査を実施し、衛生用品、経口補水液、衣服などを配布し、のべ622人を支援した。
- ・中谷三保子専門家（臨床心理士）と菅原千賀子専門家（災害看護専門家）を派遣し、菌小学校避難所で被災者支援にあたる学校職員18人へのマンツーマンの心身健康チェックを提供した。

- ・サンサポとの連携のもと、被災した幼稚園児への傘、弁当箱、カラー帽子、水筒（計192人分）、仮設住宅居住者へのブランケットや敷きパッド300枚等の支援を提供。またサンサポが真備に設置した被災者向けコミュニティスペースの整備費の一部（工事費、家具、家電）および被災者への配布用の衛生用品などの物資を支援した。
- ・倉敷市や総社市を中心とした被災者向けの心理社会的支援ワークショップ（災害時の子どもの支援、ストレスマネジメント）や家族向けイベント、ボランティア向けの災害支援に関するワークショップ等を、岡田太陽専門家（臨床心理士）派遣のもと実施し、計265人が参加した。

（成果）

- ・緊急物資支援では、被災者が必要としていながら配布が行われていない物資を調査して配布したため、ニーズにきめ細やかに対応することができた。
- ・災害直後から休むことなく避難所運営に携わっていた支援者の疲弊が懸念されたが、健康チェックとカウンセリングの提供を通じて、支援者の健康を支えることができた。
- ・現地支援団体と連携することにより、災害後の異なるフェーズで被災者が必要とする物資や、心理社会的支援のニーズを把握することができ、効果的な支援につなげることができた。



避難所運営に携わる支援者にカウンセリングを提供する中谷専門家（2018年7月）



支援者・保護者に向けたストレスマネジメントのワークショップの様相（総社市）

## 【B. 海外事業】

### B-1. ネパールにおけるコミュニティ災害対応能力強化及び社会的弱者のための災害後心理社会的支援事業

事業期間	2018年3月～2019年3月
事業地	ネパール（カトマンズ市）
目的	ネパールにおいて行政や地域住民を含むコミュニティ全体の災害対応能力を向上させ、社会的弱者のための災害後心理社会的支援を強化すること。
支援対象者	カトマンズ市職員、社会的弱者支援団体スタッフ、看護専門家、大学院生など
資金供与団体	外務省、寄付金

#### （事業実施の経緯）

2015年4月のネパール地震直後に、当団体は緊急支援とニーズ調査を実施した。その結果、地域住民の災害リスクへの意識の低さやコミュニティ支援者の災害対応の知識不足が被害拡大に繋がったことや、脆弱性の高い社会的弱者（子ども、女性、障がい者、高齢者）が災害により一段と被害を受けやすいことが明らかになった。上記の課題に対応するため、コミュニティ支援者の能力強化が必要と判断した。

#### （事業内容）

カトマンズ市（カ市）における災害対応支援に関わる関係者（カ市公衆衛生部、防災部、社会的弱者支援団体、看護団体、大学院生）を対象に、災害対応能力向上研修（①防災、②災害後心理社会的支援）を実施。また上記関係者同士のネットワーク会議を実施し、情報交換や連携を促進する。上記の研修受講団体に加え、市内の公共施設に防災リーダーキットを配布し、研修で育成された人材とカ市が中心となり、その使用法を普及することで、コミュニティの防災体制を向上させる。

#### （具体的な事業活動）

- ・カ市の災害対応支援関係団体と、学校、ヘルスポスト、役所への防災リーダーキットの配布（計295式）。
- ・カ市災害対応支援関係者を対象に、日本人・国際専門家の派遣による災害対応能力向上研修を計20回（防災8回、心理社会的支援12回）実施し、のべ700人が受講した。
- ・ネットワーク会議が4回開催され、各団体の災害対応の取組みの共有が行われたり、団体間の連携について活発な議論が交わされた。
- ・防災リーダーキット配布先の学校、ヘルスポストや役所で、防災リーダーキット使用法の職員向けトレーニングを実施。
- ・研修受講団体が協力して、コミュニティに心理社会的支援について普及するコミュニティワークショップを実施し、93人の住民が参加した。

#### （成果）

- ・防災リーダーキット配布先の公共施設で防災リーダーが育成され、コミュニティの防災体制が向上した。
- ・災害対応に関わる行政、民間支援団体、病院、大学等の関係者のネットワークが構築された。

- ・ 災害対応能力向上研修の受講者のうち15人が、災害対応についてコミュニティに普及する「災害対応トレーナー」として育成された。



中谷専門家（臨床心理士）による「災害とセルフケア」の研修を受講するネパール人専門家

カ市MEOC（緊急オペレーションセンター）に一時保管されている防災リーダーキット

#### B-1. ネパール震災遺児 教育・生計向上プロジェクト

事業期間	2016年11月～2018年10月
事業地	ネパール（カトマンズ、バクタプール、ラリトプール、シンドウパルチョク）
目的	2015年4月の地震で生活に大きな影響を受けた若者に対し、奨学金、リーダーシップ研修、職業訓練等を提供し、生計向上を支援する。
支援対象者	ネパール地震で孤児となった子どもと地震により深刻な影響を受けた孤児
資金供与団体	あしなが育英会、寄付金

##### （事業実施の経緯）

2015年4月に発災したネパール地震は8,000人を超える死者を出した。この震災により、多くの子どもが孤児となり、学校に通えない、ストリート生活を余儀なくされる等の問題が発生した。特に山間部では、教育が受けられない子どもが危険な仕事に就くことを余儀なくされたり、人身売買の対象になるなど、深刻な問題に発展していた。

##### （事業内容）

ネパール地震によって片親または両親を亡くした子どもおよび生活に大きな支障をきたした孤児（51人）を対象に、それぞれのニーズに基づき、学業を継続するための奨学金、リーダーシップ研修、就業や起業を促進するための職業訓練を提供する。本事業は、現地パートナーのイスラエイドおよびSOS Children's Village Nepal (SOS) との連携により実施した。

##### （具体的な事業活動）

- ・ 28人の受益者に、2年間奨学金を支給した。
- ・ 5つの現地教育機関と連携して、18人の若者に、各受益者のニーズに基づいた職業訓練プログラム（事務員、裁縫、美容師、バイクや携帯電話の修理、電気工、大工、配管工など）を提供し、その後就業・起業促進の支援を行った。

・心理社会的支援に専門性を有するイスラエイド現地スタッフが、受益者のメンタルヘルスのアセスメントを実施し、必要に応じて追加的な心理社会的支援を提供した。

(成果)

- ・28人の社会的、経済的に不利な立場に置かれる震災遺児が、奨学金の支給により高等教育を受けることができ、25人が高等教育を終了した。
- ・職業訓練を受けた受益者の一部が、就業・起業することができた。
- ・過酷な暮らしや、幼少期に家族の喪失などを体験している受益者に、必要に応じた心理社会的支援を提供した。



大工の職業訓練に従事する受益者



2018年3月に職業訓練修了者に対する修了式を実施（SOSホールにて）

### B-3. ネパール シンドウパルチョク郡における小学校支援

事業期間	2018年3月～2019年12月
事業地	ネパール（シンドウパルチョク郡）
目的	2015年4月の地震で甚大な被害を受けた小学校の施設改善を行い、子どもの学習環境を向上させる。
支援対象者	ラタンコット村小学校
資金供与団体	株式会社 HR インスティテュート、寄付金

(事業実施の経緯)

2015年のネパール大地震の直後に、JISPとイスラエイドの合同緊急支援チームは、被害が甚大で、山間部で支援が届きにくかったラタンコット村で、シェルター建設、モバイルクリニック運営、緊急心理社会的ワークショップなどを実施した。2018年に当団体の活動を支援する株式会社HRインスティテュートがラタンコット村の復興状況を視察した結果、同村への支援を決めたため、コミュニティーリーダーと協議して学校支援を行うことになった。

(事業内容)

ラタンコット村の小学校併設のECD教室に、子どもが安全に遊んだり学んだりするための設備や備品を提供した。

(具体的な事業活動)

- ・小学校併設のECD (Early Child Development=幼児教育) 教室の改修を実施。子どもの安全性を保つために床に緩衝材を設置、机や棚、クッションなどの家具、絵本、描画や遊びのための備品を支援した。
- ・地元アーティストの協力を得て、ECD 教室内の壁にはネパール語や英語のアルファベットや数字、校舎外側の壁にも子どもが学校を楽しい場所と感じられるような絵を描いた。

(成果)

十分な教育や遊びのための備品がなかった ECD 教室の環境が整備され、6 歳未満の子どもが、より安全な環境で、楽しみながら遊んだり学習できるようになった。



地元アーティストによって校舎外側の壁に絵が描かれた

新たに配備した遊具や描画用具を使って遊ぶ子どもたち

B-4. ケニアにおける南スーダン難民の子どもへの緊急支援

事業期間	2018年1月～2021年3月(予定)
事業地	ケニア(トゥルカナ郡 カロベエイ新居住地)
目的	深刻なストレスを抱える難民の子どもに適切な心理社会的支援を提供し、子どもの心身の健康を改善すること。子どもにやさしい空間の取り組みを難民コミュニティに根付かせること。
支援対象者	南スーダンを中心としたケニア周辺国からの難民
資金供与団体	特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム、イスラエイド

(事業実施の経緯)

2016年以降、南スーダンでの紛争による治安悪化にともない、同国の周辺国に多数の難民が避難してきており、ケニアでは現在約11万人の南スーダン難民が避難生活を送っている。事業地のカロベエイ新居住サイトに居住する難民は、紛争、飢餓、干ばつなどの過酷な体験によるトラウマや、厳しい難民生活により強いストレスを抱えているが、心理社会的支援へのアクセスは非常に限定的なため、特に脆弱性の高い子どもへの心身の健康への影響が懸念されている。

(事業内容)

ケニアのトゥルカナ郡のカロベエイ新居住サイトに、子どもにやさしい空間「チャイルド・リソースセンター(CRC)」を建設し、難民の子どもに心理社会的支援や、学び、遊びの機会を提供

する。また難民の避難生活の長期化を見越し、将来的には CRC を難民コミュニティが運営できるように難民のコミュニティリーダーの能力強化を行う。当事業は、現地パートナーのイスラエイドとの協力により実施している。

(具体的な事業活動)

- ・ カロペエイ新居住地Village2にCRCを1棟建設。
- ・ 難民のファシリテーターの育成と雇用（10人）、リフレッシャー研修の実施。
- ・ 週6日（日曜以外）CRCを運営し、子どもへの支援を提供。
- ・ 子どものアセスメントやフォーカスグループとの会合を通じた、子どもの保護についての情報収集。
- ・ 難民コミュニティによる運営管理のための「CRC委員会」（13人で構成）の設置と、能力強化プログラムや運営委員会の実施。
- ・ CRC委員会が難民コミュニティへの、子どもの保護についての意識啓発ワークショップを実施し、1,043人が参加した。

(成果)

- ・ 468人の難民の子どもが利用登録を行い、1日平均146人の子どもが利用した。
- ・ フォーカスグループ参加者の100%が、CRCが子どもの心身の健康を向上するのに有用であると結論した。
- ・ 特別なニーズを抱える子どもの100%が付託により支援に繋がれた。
- ・ CRC委員会が、子どもの保護についての基礎知識を身につけ、自身で子ども向けアクティビティを実施できるようになった。



CRCで行われた大滝専門家（心理士）によるフォローアップ研修（2018年7月）



CRCで開催したコミュニティへのワークショップは、多くの難民が参加した